

<p>審議等の概要</p>	<p>《回答》 資料左側の（１）収益的収支計画表の下段の支出の欄で、営業費用の４段目「総係費」に事務経費を計上しております。</p> <p>（５）予算は７億４，９００万円で、裏の施策事業費では１３億７，１００万円ですが、差はほかにも含まれているのでしょうか。</p> <p>《回答》 人件費はその他の費目、資本的支出においても予算計上しており、それらを含めて約１３億円となっています。</p> <p>【意見】全体で財政基盤の強化ということを挙げているので、どういう事業にどれだけの人件費がかかっている資料があったほうがよいと思います。</p> <p>（６）特別会計は独立採算なので、収益的収支では令和５年度に利益が出ているので事業としてはよいと思うが、資本的収支の収支不足額が大きいのはどうなのか。</p> <p>《回答》 資本的収支計画表の収支不足額が大きいことですが、資本的支出の財源は企業債や国庫補助金となります。最近では国庫補助金の内示率も低くなりつつあり、これらの財源の確保が厳しいというところもございます。企業債に関しましては充てられる事業が決められており、借金を充てることができない事業もございます。そのため、収入の確保が厳しく、収支不足額が解消できるよう収益的収支の利益を財源としたり、将来に向けて積立てをしたりするという計画としています。</p> <p>（７）裏面の円グラフで、維持管理費及び建設改良費の合計を見ると、基本方針２には重点施策が３つあるが、重点施策がない基本方針３と比較すると、基本方針２の費用が圧倒的に少ないのはなぜか。</p> <p>《回答》 基本方針３の美しく豊かな環境づくりの費用は、日頃の浄化センターの維持管理費も入っております。主に金額的にウエートを占めるのが大きい維持管理に関する経費で、水質改善のために日々取り組んでいる費用が大きいものとなります。重点施策が基本方針３の中にはございませんが、下水道事業としては一番基本的な水質改善に着目すると、大きいのはやむを得ない状況です。 また、今は耐震の診断、改築に向けた設計が主な事業となっております。その結果次第で耐震補強工事などを実施してまいりますので、基本方針２の円グラフ割合も増えてくると思われまます。</p> <p>（８）基本方針３の写真では、放流渠が２つあり、右側の放流渠は雨水だけの放流渠になっているのか。両方使われるのでしょうか。</p> <p>《回答》 写真右側の放流渠は新設したもので、辻堂浄化センターの放流と合流式改善での放流管です。左側の放流管は今年度撤去工事を行い、右側の新設１本で放流することになります。</p> <p>（９）事務費と委託料は国庫補助金の対象になっていると思うが、国の会計検査院の検査があるので、対象としていないのか。</p> <p>《回答》 国庫補助金に関しては、委託や事務経費は対象にも充てております。</p> <p>（１０）資料１裏面の右上地図「令和６年ストックマネジメント管路調査箇所」で、赤い箇所が下に集中しているが、何年ぐらいで全部調査を終えるのか。</p> <p>《回答》 ストックマネジメントの管路調査は、１０年かけて約５００キロの管路調査をする見込みでございます。今回の中期経営計画の１０年の中で、５００キロという目標を立てて進めております。</p> <p>（１１）中期経営計画の達成状況の浄化センターポンプ場設備改築のところで、令和４年が１０ユニットとなっている。資料３では機器点検が８，０００点、２，４００ユニットとあるが、毎年１０ユニット点検していくとかなり時間がかかるのではないか。</p> <p>《回答》 資料２では、令和７年度は１８ユニット、令和８年度は７ユニット、令和９年度は７ユニット、それ以降は３３ユニット実施する計画です。ストックマネジメントの実施方針の中でリスクランクを設定しており、リスクが高いものを優先的に、目標値（リスクランク）を将来的に減らしていくシナリオです。今後、再構築などで８，０００点の分母が変わる可能性も大いにあります。その目標に向かい事業を進めてまいります。</p>
---------------	--

(12) 汚泥の包括委託により、点検のユニット数は減ってくるのでしょうか。

《回答》

健全度調査として重要機器の調査となります。年間の予定でおおむね80点としていますが、包括の中で保全の区分が変更になり数が減っております。

(13) 包括で点検等を行うので、現状の計画値としては妥当という理解でよいか。

《回答》

処理場、ポンプ場にある設備点数8,000点のうち、老朽化の状態が把握できる点数が800点としています。この800点は、老朽化状況を把握するための点検調査が健全度調査です。残り7,200点は、老朽化の具合が分かる機器ではなく、時間経過により交換する機器です。例えばパソコンなどの電子部品で、古くなると急に壊れてしまう機器のことです。汚泥包括では、老朽化の具合を調査しなければ分からないと区分していた800点のものを、時間経過に変えることで効率的に進めていく形としたため、数が変わりました。改築するユニット数については、8,000点を機能を発揮する単位ごとにまとめた数値でございます。今の保全区分が変わることによりユニットを改築する数が変わることはございませんので、変更なく行ってまいります。

(14) 下水道のストックマネジメントの管理を進めている中で、ストックを約3分の1にまとめて効率的に管理されているとのことですが、実際に発生している効果や作業的な負担、経費的な負担がどれぐらい減ったのか分ければ教えてほしい。

《回答》

令和2年からストックマネジメント計画を策定し、処理場、ポンプ場、管路、施設全体を計画的に維持管理していくという方針を定めまして、少しずつ工事をやっている中で、今現在、現状把握というところで調査点検を主に実施しているところでございます。効果は今現在、データを蓄積している状況で、今後データを分析し、効率的な形、施設の劣化が適切に見定められるよう必要な工事をしていく予定で、今現在はまだ効果についてお見せできるものはありません。今は緊急度が高いことが分かったところから、随時工事設計、工事の発注をしているような状況です。

(15) 例えば調査対象の施設延長に対して健全性の高い管渠の延長割合を示されています。その調査をすることにより、割合がどう上がってきているかということを示すことができれば、効果として言えるのではないかと思います。データとは言わず、健全性の高い管渠がこれだけ増えたが分かるのであれば、何か説明をしていただきたい。

《回答》

管路では年間約50キロの調査を計画しております。過年度実績から2割程度が緊急度が高い被害のある管路という数字は出ており、50キロ調査をすると約10キロ程度が緊急度1や緊急度2で、速やかに改築が必要なものが見えてきます。調査を蓄積することで健全の管路延長が見えてまいりますので、達成目標で示すことが可能だと思います。また、ストックマネジメントの実施方針を立てる際に幾つかのパターンのシナリオをつくりました。単純に50年で管路改築を全て行ったときの金額や、調査を少しずつ進め悪いところから改築していき予算の平準化をするなど検討し、一番いいシナリオで作業を進めており、実際の効果としては長期的なスパンの中で大きく出てくるのではと考えております。今後お示しできる数字は公開してまいります。

《議題》

2 ふじさわ下水道中期経営計画の評価方法について（案）

（資料4に基づき説明）

【質疑】

(16) 事業評価は、情報公開でホームページや広報など活用と書いてありますが、公表する時期や方法はどのように考えているのか。市民の意見があった場合、どのように今後の事業評価に反映していくのか。また、近隣市でこのような形で事業評価をされているところがあるのか教えてほしい。

《回答》

公表の時期は、決算の公表に合わせて公表していく予定です。市民の意見をどのように反映させていくかにつきましては、計画の見直しなどが随時行われることも考えられますので、その中で意見を取り入れてまいります。近隣市の評価については把握できておりませんので確認してまいります。

(17) 重点施策の評価ですが、前回よりすごく分かりやすくなりましたが、見える化、見える化の推進を図ると計画の中に入っている中で、重点施策達成目標の評価やチャート図をぱっと見ると、少し分かりにくい気がします。広報に掲載した場合、市民の方には分かりにくいのではと感じます。もう少しできるだけ説明部分を平易な文言にしていただければと思います。×「達成できていない」、△「目標に

<p>審議等の概要</p>	<p>達していない」に関しては、今後の対応等のコメントを入れていただくと分かりやすくなると思います。興味を持っていただけるような、見たいと思うような表現ができればよいと思います。</p> <p>《回答》 広報などに掲載する際は、できるだけ分かりやすくするよう検討いたします。 ×、△の今後の対応につきましては、計画を進める上でどう対応していくかなどのコメントが必要だと思っております。できるだけ興味を持っていただけるような表現を検討してまいります。</p> <p>(18) 重点施策の施策6の流末が耐震化された管路に接続するとあるが、流末とは何を示すのか。流末が耐震化された管路に接続する避難施設とはどういうことか。 《回答》 被災時においても避難施設でトイレ利用ができるよう、下水が処理場まで流れ処理が最低限できるよう対策するものです。上流に向け管は細くなっていきます。木に例えると、大きな幹から枝になっていくような形です。下流の大きな管を幹線といい、それより上流の細い管を枝線といて流末といいます。幹線管渠は多少ずれたり潰れたりしていても流れますので、避難所とを結ぶ細い管の対策をまず進めていく考えでございます。 具体的には、市役所が避難所の場合、下水管は駐車場側から流れています。境川沿いに大きい管（幹線）が入っており、市役所から川までの間が細い管（枝線）の部分です。この細い管を耐震補強します。</p> <p>(19) レーダーチャートに×の評価があると、図だけ見ると何もしていないのではと思われてしまうのでは。その評価をどうするのか。 《回答》 ×の評価に関しては、目標に対して6割を下回る場合の評価となるため、公表の際は、何ができていて、何ができていないかを検証し、今後どのように取り組むかを明確にいくための評価として公表を行ってまいります。</p> <p>(20) 耐水化とか耐震化は、達成状況ではポイントを使っているが、評価ではパーセントで目標値を表している。ポイントは実施数で進捗がよく分かるが、評価でのパーセントにも反映されるのか。 《回答》 中期経営計画P27の下段「年次計画」のR5計画値は6.4ポイントで、これが全て出来た場合の評価は100パーセントとなります。 中間目標の64%については、下段の説明に浄化センター・ポンプ場の施設数は75施設とあり、1ポイントが1施設としておりますので、6.4ポイントできれば、6.4/75をパーセントで表しています。既に耐震性能を有しているもののポイントと、各年のポイントを足しこんだものを75で割ると64%となります。</p> <p>(21) 前回資料から曖昧な表現が削られ、すっきりして大変見やすく整理されていると思います。基本的には、1と2を両方見ながら判断していくものになるかと思えますので、レーダーチャートだけ見て分かりづらい点は、前のページを見て、これはどういう意味かを見ていくものになることなので、これ以上分かりやすくは大変難しいのではないかと思います。公表する際は×があると目立つため、理由の説明は当然ないといけないと思います。今後どうしていくかという付記は必要だと思います。 《回答》 レーダーチャートの上に達成目標の評価欄があり、理由等を記載をいたします。また、分かりやすく説明を記載するよう対応させていただきます。</p> <p>【意見】 リスクの大きい施設の割合が◎となっているのが気になり、理由については資料の1-1（達成目標の評価）を見ないとわからないことから、資料1-1も必ずつけていただきたいと思います。</p> <p>【意見】 公表の際、チャート図と目標の評価の数字が連動して分かるように。文章としては、達成目標の評価に少し書き加えて説明をしておくことが大事だと思います。</p>
<p>その他</p>	<p>(1) 令和6年度下水道PR事業について【施策15関連】 参考資料に基づき説明</p> <p>(2) 能登半島地震の被災地状況について 能登半島地震志賀町応援職員派遣報告</p>